2022年度

日本健康医療専門学校

シラバス　（講義概要）

柔道整復学科

1年生

基礎分野	科学的思考の基礎　人間と生活	人文科学1（国語表現）	
髙橋正樹			
必修	2単位（30時間）	講義	1年次

1. 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

すべての学習の根幹は国語にある。どんなに情報化社会が進んだとしても『読み、書き』の学習における重要性は色褪せない。それは、例え学生が社会人となっても同様である。

〈到達目標〉

専門分野の学習が始まるにあたり、もう一度この国語学習の基礎に取り組んで行きたい。講義の前段は語彙力、漢字力、基礎的な構文の理解をする。次に文章理解と文章作成力を養う。文章を『読む力』と、文章を『書く力』の習得が当講義の到達目標である。

2. 授業内容

第1回　授業ガイダンス・一般教養①(雑学)

第2回　一般教養②(間違いやすい漢字の読み)

第3回　一般教養③(都道府県の特徴)

第4回　一般教養④(日本の難解地名・外国の地名)

第5回　一般教養⑤(諺・慣用句)

第6回　一般教養⑥(日本を知る)

3. 履修上の注意

鍼灸の専門科目には直接の影響はあまりないが，資格取得後に役立つ内容を準備しているので少しでも関心を持って臨むこと。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

配布プリントや授業内での内容の復習

5. 教科書

教員サイドで作成する教材(プリント等)を使用する

6. 参考書

適宜紹介

7. 成績評価の方法

平常点(出席状況，課題提出等を総合的に鑑み評価)

試験(レポート形式)

8. その他

スケジュールは学生の状況を考慮して変更する場合もある

基礎分野	科学的思考の基礎　人間と生活	人文科学2（コミュニケーション）	
髙橋正樹			
必修	2単位（30時間）	講義	1年次

1. 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

患者等への対応に必要なコミュニケーション能力を身につけると共に、それらを良好にするためのビジネスマナーを習得する。医療従事者と患者間、或いは医療従事者同士で情報が正しく伝達されないこと（コミュニケーションエラー）により、様々な事故や問題の発生が予見されます。それらを未然に防止するには① 相手にわかりやすい説明をすることができる言語力、② 相手が正しい理解をすることのできる文章作成力、③ 相手の話をしっかりと聴くことのできる会話力これらを養うことが重要です。

〈到達目標〉

医療従事者として患者等へしっかりとした説明をすることができること、そしてインフォームド・コンセントの重要性を認識させることが、当講義の到達目標である。

2. 授業内容

第1回　授業ガイダンス・上手なコミュニケーションをおこなうには・江戸しぐさ

第2回　豊かな表現を増やす①・②

第3回　語彙を増やす①・②

第4回　改まった場面で信頼される言葉遣い・敬語間違えないために

第5回　知的な印象を与える言葉①・②

第6回　随筆を読む

3. 履修上の注意

鍼灸の専門科目には直接の影響はあまりないが，資格取得後に役立つ内容を準備しているので少しでも関心を持って臨むこと。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

配布プリントや授業内での内容の復習

5. 教科書

教員サイドで作成する教材(プリント等)を使用する

6. 参考書

適宜紹介

7. 成績評価の方法

平常点(出席状況，課題提出等を総合的に鑑み評価)

試験(レポート形式)

8. その他

スケジュールは学生の状況を考慮して変更する場合もある

基礎分野	科学的思考の基礎　人間と生活	社会科学１（法学入門）	
福井 丈郎	ビジネス系専門学校で簿記、販売士等の受験指導に携わる。 中小企業診断士　行政書士　ＦＰ		
必修	2単位（30時間）	講義	1年次

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

社会人として適正に法律を遵守することは不可欠である。またトラブルに巻き込まれないよう、法的知識を身につけておくことは職業人として必須項目である。講義の前段は①法とは何か、②法律の体系、③法秩序の原則、④法令の解釈の仕方を理解する。日本国憲法の正しい理解と、民法、労働法の基礎を学習することが主たる講義内容である。

〈到達目標〉

法的素養、中でも正しい法解釈を習得することを第一目標とするが、叶うならば法的思考力の獲得を最終的な目標としたい。

2 授業内容

第1回　ガイダンス　日本国憲法概説① 立憲主義について

第2回　日本国憲法概説② 自由主義と統治機構

第3回　民法① 契約とは 債務不履行について 不法行為

第4回　民法② 医療過誤について　インフォームドコンセント 患者の知る権利 自己決定権

第5回　あはき法概説① 日本国憲法25条（生存権）に立脚するはりきゅう師のあるべき姿

第6回　あはき法概説② はりきゅう師の業務とは

第7回　治療院経営法務①

第8回　治療院経営法務②

第9回　学習習熟度確認テスト（中間試験）

第10回　労働基準法概説① 労働契約の締結 労働契約の内容　労使協定 労働契約の終了 解雇

第11回　労働基準法概説② 賃金 賃金の支払

第12回　労働基準法概説③ 労働時間 休憩 休日 時間外労働・休日労働 割増賃金

第13回　治療院経営法務③

第14回　治療院経営法務④

第15回　最終評価

3 履修上の注意

出席状況をを成績評価の中心にする。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

特に予習の必要はない。時事問題や政治経済に対して常に関心を持つこと。

5 教科書

指定する教科書はない。オリジナル教材を毎回作成配布する。

6 参考書

特になし。

7 成績評価の方法

最終評価試験を持って成績評価をするも、出席状態を特に重視する。

8 その他

基礎分野	科学的思考の基礎　人間と生活	社会科学2（社会保険制度）	
福井丈郎	ビジネス系専門学校で簿記、販売士等の受験指導に携わる。 中小企業診断士　行政書士　ＦＰ		
必修	2単位（30時間）	講義	1年次

1. 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

日本国憲法第25条に規定する理念に基づき制定されている様々な社会保障制度の内、特に疾病、老齢、失業、労働災害などの事由に基づき給付される社会保険制度について取り上げ講義を行う。

〈到達目標〉

日本の社会保険制度を理解し患者等に適切な指導助言ができる知識を得ること。

2. 授業内容

第1回　ガイダンス　社会保険制度の全体像
第2回　公的医療保険の全体像　健康保険と国民健康保険の仕組み
第3回　年金保険① 国民年金と厚生年金の仕組み
第4回　年金保険② 老齢給付 障害給付 遺族給付
第5回　介護保険　介護保険の仕組み
第6回　雇用保険① 雇用保険の仕組み
第7回　雇用保険② 失業給付 就職促進給付 教育訓練給付
第8回　労災保険① 労災保険の仕組み
第9回　労災保険② 療養補償給付 休業補償給付 傷病補償給付 障害補償給付
第10回　民間保険① 民間保険の仕組み
第11回　民間保険② 定期保険 養老保険 終身保険 医療保険
第12回　損害保険の仕組み
第13回　個人年金保険
第14回　社会保険と税金
第15回　最終評価

3. 履修上の注意

出席状況をを成績評価の中心にする。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

特に予習の必要はない。時事問題や政治経済に対して常に関心を持つこと。

5. 教科書

指定する教科書はない。オリジナル教材を毎回作成配布する。

6. 参考書

特になし

7. 成績評価の方法

最終評価試験を持って成績評価をするも、出席状態を特に重視する。

8. その他

基礎分野	科学的思考の基礎　人間と生活	**自然科学１（人体の構造）**	
丹尾美絵	柔道整復師として接骨院の実務経験		
必修	2単位(30時間)	講義	1年次

1. 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

解剖学と生理学をそれぞれの専門の先生が教えてくれます。２つの教科の間に入り、結びつけてヒトの身体として理解するのが自然科学の科目としての位置づけです。『解剖学や生理学のイメージがつきにくかったり、また、解剖学と生理学が別々に感じて、繋がりが持てていないように思える。』ことに対して、理解しやすい解剖生理学を目指します。しかし、学問、学習、医学は、とても奥が深く、不明な点が多い事もあります。そこが、理解しにくくなるかもしれません。でも、安心して下さい、学ぶ内容は、医学の入り口に過ぎないので、楽しく学びましょう。

分からない点は、直ぐに調べ、無理であったら、直ぐに質問するようにして下さい。

〈到達目標〉

医療従事者としてのコンピテンシーを充足させプロフェッショナリズムの入り口に達するレベルを最終到達目標とする。

2. 授業内容

第1回　細胞の構造と機能（タンパク合成）

第2回　細胞の構造と機能（細胞分裂）

第3回　生命の維持機能１（呼吸・循環の構造と機能）

第4回　生命の維持機能２（呼吸・循環の構造と機能）

第5回　生命の維持機能３（調節）

第6回　身体運動の構造と機能

第7回　身体運動の調節

第8回　まとめ（基礎編１）：身体活動

第9回　消化吸収と循環器

第10回　消化吸収と調節

第11回　ホルモンの働き

第12回　ホルモンと運動期

第13回　成長と老化

第14回　発育発達

第15回　まとめ（基礎編２）：身体構造の構築

3. 履修上の注意

解剖学、生理学の講義をしっかりと学び、理解するように努めること。疑問や課題をこの科目で解決しましょう。

4. 準備学習（予習・復習）の内容

解剖学、生理学の予習と復習

5. 教科書

解剖学、生理学の教科書

6. 参考書

特になし

7. 成績評価の方法

出席、課題、定期試験、小試験結果による総合評価

8. その他

基礎分野	科学的思考の基礎　人間と生活	自然科学2（現代社会と健康）	
丹尾美絵	柔道整復師として接骨院の実務経験		
必修	2単位(30時間)	講義	1年次

1. 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

解剖学と生理学をそれぞれの専門の先生が教えてくれます。２つの教科の間に入り、結びつけてヒトの身体として理解するのが自然科学の科目としての位置づけです。『解剖学や生理学のイメージがつきにくかったり、また、解剖学と生理学が別々に感じて、繋がりが持てていないように思える。』ことに対して、理解しやすい解剖生理学を目指します。しかし、学問、学習、医学は、とても奥が深く、不明な点が多い事もあります。そこが、理解しにくくなるかもしれません。でも、安心して下さい、学ぶ内容は、医学の入り口に過ぎないので、楽しく学びましょう。

分からない点は、直ぐに調べ、無理であったら、直ぐに質問するようにして下さい。

〈到達目標〉

医療従事者としてのコンピテンシーを充足させプロフェッショナリズムの入り口に達するレベルを最終到達目標とする。

2. 授業内容

第1回　内呼吸と外呼吸

第2回　血液と血液ガス

第3回　細胞における代謝

第4回　心臓の構造と機能

第5回　ガス交換の構造と機能

第6回　血圧調節の仕組み

第7回　まとめ（発展編）：呼吸・循環の構造と機能

第8回　循環・呼吸器系と泌尿器系

第9回　循環・呼吸器系と消化器系

第10回　感覚の入力と認識１（一般）

第11回　感覚の入力と認識２（特殊）

第12回　TBL課題1

第13回　TBL課題２

第14回　TBL課題３

第15回　まとめ：総合討論

3. 履修上の注意

解剖学、生理学の講義をしっかりと学び、理解するように努めること。疑問や課題をこの科目で解決しましょう。

4. 準備学習（予習・復習）の内容

解剖学、生理学の予習と復習

5. 教科書

解剖学、生理学の教科書

6. 参考書

特になし

7. 成績評価の方法

出席、課題、定期試験、小試験結果による総合評価

8. その他

分野	科学的思考の基礎　人間と生活	**保健体育**	
立花紀世実			
必修	2単位（30時間）	実技	2年次

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

心と体を一体としてとらえ、スポーツの専門的な理解と、高度な技術の修得だけではなく、その実践から生まれる豊かな心の発達を体験的に学習する。また、医療人として体の健康増進と心の発育・発達、そして運動の安全性について理解をすることで、患者等に対して、運動の合理的な計画案が作成できるようにする。

〈到達目標〉

生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、豊かで明るい活力のある生活を営む態度を育てることが本講義の目的である。

2 授業内容

1回　オリエンテーション　（概要説明）

2回　運動が健康に及ぼす影響（健康維持のための運動の必要性について学ぶ）

3回　運動が健康に及ぼす影響（健康維持のための運動の必要性について学ぶ）

4回　基本的なストレッチ（基本的なストレッチを学び、柔軟性を高める）

5回　基本的なストレッチ（基本的なストレッチを学び、柔軟性を高める）

6回　脳と運動の関係（身体を動かして脳を活性化する）

7回　脳と運動の関係（身体を動かして脳を活性化する）

8回　心身の相関とストレス（心身相関のしくみ、ストレスの影響について学ぶ）

9回　体つくり運動（各種の体ほぐし運動、体力を高める運動を行い体力向上を目指す）

10回　体つくり運動（各種の体ほぐし運動、体力を高める運動を行い体力向上を目指す）

11回　生涯スポーツの見方・考え方（各ライフステージに応じたスポーツの特徴について学ぶ）

12回　ライフステージに応じたスポーツ（自分に合ったスポーツライフステージを見つめよう）

13回　ライフステージに応じたスポーツ（自分に合ったスポーツライフステージを見つめよう）

14回　体育実技

15回　最終評価

3 履修上の注意

主に体を動かす授業を行うため、準備体操はしっかり行い怪我がないようにする。

また、頭髪・ピアス・服装の乱れなどは厳禁とし評価対象とする場合があるため身だしなみはしっかりと整えるようにする。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

体を動かすため、必ずジャージを着用すること。

身だしなみを整えるようにする。（頭髪・ピアス・服装の乱れなど）

5 教科書

6 参考書

7 成績評価の方法

単元終了時点で小テストを行い、計6回の平均点で評価する。また、平常点として出席率・授業態度等も評価の１つとする。

8 その他

専門基礎分野	人体の構造と機能	形態機能学１（解剖学）	
工藤宏幸	医学部解剖学講座教員として、人体解剖学講義、解剖実習を担当（1982～現在）		
必修	4単位(80時間)	講義	1年次

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

形態機能学は人体を理解するための基本的な学問であり、形態（構造）を対象とする解剖学と、機能を対象とする生理学を統合したものである。本講義では、細胞と組織を概観し、内臓系（消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系）、神経系（中枢神経系、末梢神経系）、感覚器系（視覚器、聴覚器）の主要器官について、解剖学的な側面から解説する。各器官の構造的な特徴とその構造を表現するための解剖学用語を説明するとともに、関係する生理機能や臨床応用の知識についても必要に応じて概説し、構造の全体的な理解を追求する。

〈到達目標〉

細胞と組織の基本的な構成を説明できる。内臓系（消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系）、神経系（中枢神経系、末梢神経系）、感覚器系（視覚器、聴覚器）の主要器官について、各器官の名称、位置、構造的特徴、生理機能の概略を説明できる。

2 授業内容

1回	解剖学総論１．解剖学用語、細胞	21回	神経系総論１．神経組織
2回	解剖学総論２．組織	22回	神経系総論２．神経系発生
3回	消化器系１．消化器総論、口腔	23回	中枢神経系１．区分、脳室系、髄膜
4回	消化器系２．咽頭、食道	24回	中枢神経系２．大脳半球、間脳
5回	消化器系３．胃	25回	中枢神経系３．脳幹
6回	消化器系４．小腸、大腸	26回	中枢神経系４．小脳
7回	消化器系５．肝臓、膵臓	27回	中枢神経系５．脊髄
8回	消化器系６．腹膜	28回	中枢神経系６．伝導路
9回	試験	29回	試験
10回	呼吸器系１．鼻腔、喉頭	30回	末梢神経系１．末梢神経系総論
11回	呼吸器系２．気管、気管支、肺、胸膜	31回	末梢神経系２．脳神経（I～VI）
12回	泌尿器系１．腎臓	32回	末梢神経系３．脳神経（VII～XII）
13回	泌尿器系２．尿管、膀胱、尿道	33回	末梢神経系４．脊髄神経後枝、頸神経叢
14回	男性生殖器系１．精巣、精管	34回	末梢神経系５．腕神経叢
15回	男性生殖器系２．精液分泌腺、外部生殖器	35回	末梢神経系６．腰神経叢、仙骨神経叢
16回	女性生殖器系１．卵巣	36回	末梢神経系７．自律神経系
17回	女性生殖器系２．卵管、子宮、膣	37回	感覚器系１．視覚器
18回	内分泌器１．下垂体、松果体	38回	感覚器系２．聴覚平衡覚器、味覚器、嗅覚器
19回	試験	39回	試験
20回	内分泌器２．甲状腺、副腎、膵島	40回	体表解剖・映像解剖

3 履修上の注意

解剖学においては、形態的特徴の理解と解剖学用語の習得が必須であるが、単に解剖学用語を暗記するだけでは有用な知識とならない。学習を反復し用語を自発的に使用することで、解剖学の知識を習熟することが必要である。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

予習：教科書の講義予定範囲を一読しておくこと。
復習：講義ノートおよび配布プリントを整理し、繰り返し学習するための資料を作成すること。

5 教科書

「解剖学　改訂第２版」　全国柔道整復学校協会監修　医歯薬出版社

6 参考書

「カラー図解　人体の正常構造と機能　縮刷版第４版」坂井建雄・河原克雅総編集　日本医事新報社

7 成績評価の方法

試験結果を基本とし、必要に応じて授業内小テスト、レポートの評価点を評価に加える。

8 その他

分野	人体の構造と機能	形態機能学2（生理学1）	
山門一平	東海大学医学部基礎医学系医学教育学　助教　勤続20年　解剖生理学ほか担当		
単位数	4単位(60時間)	講義	1年次

1. 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

医療従事者として身体の構造と機能を理解することは必須であり、解剖と生理学で構成される形態機能学は重要な教科です。構造あっての機能。機能のための構造として、カタチを知り機能を理解するために、多くの単語を使います。学習のポイントは、単語のネットワークとイメージです。基礎医学である形態機能学を"理解"し、臨床に結びつく基礎を学修します（GIO）。

〈到達目標〉

形態機能学に欠かせない用語を正しく分類し、列挙することができる。また、各構造と機能に対し、理解した上で説明することが出来る（SBOs）

2. 授業内容

第1回	生理学とは1/2　細胞、組織	第21回	内分泌　下垂体系ホルモン
第2回	生理学とは1/2　恒常性、体液	第22回	内分泌　非下垂体系ホルモン
第3回	筋の生理1/3　骨格筋構造と筋収縮メカニズム	第23回	内分泌　ホルモンとホメオスタシス
第4回	筋の生理2/3　骨格筋の収縮生理、筋電図	第24回	生殖　性分化、男性生殖器と女性生殖器
第5回	筋の生理3/3　心筋、平滑筋	第25回	生殖　妊娠と分娩
第6回	神経の生理1/5　ニューロンと興奮、伝導	第26回	血液　血液の成分と組成
第7回	神経の生理2/5　神経系	第27回	血液　止血と線溶
第8回	神経の生理3/5　脳の高次機能	第28回	血液　血液型と免疫
第9回	定期試験	第29回	定期試験
第10回	神経の生理4/5　睡眠、学習、内臓の調節	第30回	生理学1まとめ
第11回	神経の生理5/5　反射		
第12回	運動の生理1/3　下行性伝導路		
第13回	運動の生理2/3　運動ニューロン		
第14回	運動の生理3/3　筋の調節　α-γ連関　運動調節		
第15回	感覚の生理　感覚（一般感覚）		
第16回	感覚の生理　感覚（特殊感覚）		
第17回	感覚の生理　体性感覚と内臓感覚		
第18回	感覚の生理　痛覚		
第19回	定期試験		
第20回	内分泌　内分泌線とホルモン		

3. 履修上の注意

多くの単語をまず覚え、それぞれの単語を結びつけるために努力すること。十分な予習、反復学習が必要となります。
生理学を理解し、医療従事者として必要最低限の知識は全員が習得する様にしましょう。

4. 準備学習（予習・復習）の内容

LMSを活用します。LMS内の問題や課題に関しては、必ず取り組む様にして下さい。また、講義後には確認テストを当日中に終える様にしましょう。

5. 教科書

指定教科書

6. 参考書

講義資料

7. 成績評価の方法

定期試験、出席、発言ポイント、課題、LMS利用等による総合評価

8. その他

専門基礎分野	保健医療福祉と柔道整復の理念	保健医療福祉1（公衆衛生学）	
大和田 賢	東海大学医学部基盤診療学系衛生学公衆衛生学講師　勤続7年		
宮山貴光	東京女子医科大学医学部衛生学公衆衛生学助教　勤続8年		
必修	4単位(60時間)	講義	1年次

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

公衆衛生学とは、「皆の健康」を守る学問である。具体的には、疾病を予防し、寿命を延伸し、身体的及び精神的健康の増進をはかる科学・技術を扱う学問分野である。疫学的調査や保健統計などから、ヒトの健康や疾病に関する様々な要因を探り、身体的・精神的及び社会的に健康な生活を送るための課題、健康増進や疾病予防へのアプローチ方法などの知識を習得する。

〈到達目標〉

衛生学、公衆衛生学の理念・概説が理解できる。

2 授業内容

1回	衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動	16回	産業保健①
2回	健康の概念	17回	産業保健②
3回	疾病予防と健康管理	18回	成人保健・高齢者保健①
4回	感染症の予防①　感染症とは	19回	試験②
5回	感染症の予防②　感染症の予防対策	20回	試験解説
6回	消毒①　消毒とは	21回	成人保健・高齢者保健②
7回	消毒②　消毒の種類と方法	22回	精神保健
8回	環境衛生①　環境とは	23回	地域保健と国際保健
9回	試験①	24回	衛生行政と保健医療制度
10回	試験解説	25回	衛生行政と保健医療制度②
11回	環境衛生②　公害、環境問題、リスク評価	26回	医療倫理と安全確保①
12回	生活環境	27回	医療倫理と安全確保②
13回	食品衛生活動	28回	疫学
14回	母子保健	29回	試験③
15回	学校保健	30回	試験解説

3 履修上の注意

ノート、教科書を必ず持参すること。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

授業の復習をしておくことが望ましい。

5 教科書

6 参考書

7 成績評価の方法

8 その他

専門基礎分野	保健医療福祉と柔道整復の理念	**職業倫理（関係法規２）**	
大城啓子	接骨院勤務5年、ハローワーク職業訓練学校講師3年		
必修	1単位(15時間)	講義	1年次

1. 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

柔道整復師として、その職業の社会的責任の重大性を認識させ、もって広く社会貢献できる人材を育てることが、本講義の目的である。
主たる内容として、柔道整復師は生涯学習の精神を保ち、常に医学の知識と技術の習得に努めるとともに、その進歩・発展に尽くすこと。そしてこの職業の尊厳と責任を自覚し、教養を深め、人格を高めるように心掛けること。更に医療を受ける人々の人格を尊重し、優しい心で接するとともに、医療内容についてよく説明し、信頼を得るように努めること。

〈到達目標〉

事例を交えて理解させ、修得させることで、後世に向けて柔道整復術の必要性や、伝統医療としての重要性を途絶えさせることのない医療人を育成することが、本講義の到達目標である。

2. 授業内容

第1回　オリエンテーション

第2回　医療従事者の職業倫理

第3回　柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応①

第4回　柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応②

第5回　柔道整復師の社会的責任と対応

第6回　グループ・ディスカッション事例

第7回　医療における情報と責任

第8回　最終評価

3. 履修上の注意

遅刻および欠席は認めない。

4. 準備学習（予習・復習）の内容

講義で実施した内容は必ず復習をしておくこと。

5. 教科書

社会保障制度と柔道整復師の職業倫理（医歯薬出版株式会社）

6. 参考書

7. 成績評価の方法

定期試験の成績で評価をする。（平常点を加味する。）

8. その他

分野	保健医療福祉と柔道整復の理念	柔道実技（柔道１）	
竹村 春樹	接骨院勤務歴有り。講道館柔道三段。		
必修	2単位(80時間)	実技	1年次

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

1882年に嘉納治五郎師範によって創始された柔道は、現在200か国に普及発展を遂げている。柔道整復師における柔道実技は、理合いを体得することで整復実技等の応用力に繋がるものである。本講義では、柔道の基本技術となる礼法と受身を中心を学び、投技技術の基礎を体得していけるようにする。

〈到達目標〉

柔道の基本技術となる礼法と受身を中心を学び、投技技術の基礎を体得していけるようにする。

2 授業内容

1回	ガイダンス	21回	前期授業の復習①
2回	柔道の歴史について	22回	前期授業の復習②
3回	礼法	23回	体落①
4回	後方受身	24回	体落②
5回	側方受身	25回	体落③
6回	前方回転受身①	26回	大内刈①
7回	前方回転受身②	27回	大内刈②
8回	前方回転受身③	28回	釣込腰①
9回	前方回転受身④	29回	釣込腰②
10回	前方回転受身⑤	30回	釣込腰③
11回	確認テスト	31回	確認テスト
12回	技の理合いについて①	32回	柔道の試合とルールについて
13回	技の理合いについて②	33回	固技の習得①
14回	大腰①	34回	固技の習得②
15回	大腰②	35回	寝技基本練習
16回	背負投①	36回	寝技乱取①
17回	背負投②	37回	寝技乱取②
18回	背負投③	38回	立技乱取の基礎
19回	確認テスト	39回	確認テスト
20回	まとめ	40回	最終評価

3 履修上の注意

ケガ防止のため担当者の指示に必ず従うこと。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

授業内で実施した内容を次の授業までに復習しておくこと。

5 教科書

柔道実技虎の巻　森脇　保彦　著　メディアパル社

6 参考書

7 成績評価の方法

確認テスト30%、実技テスト70%　授業態度や出欠状況にも留意すること。

8 その他

専門基礎分野	社会保障制度	**社会保障制度**	
大城啓子	接骨院勤務5年、ハローワーク職業訓練学校講師3年		
必修	1単位(15時間)	講義	1年次

1. 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

国民の生存権の確保を目的とした国家の保障制度を理解することは、その一翼を担う医療人として不可欠である。

社会保障制度の目的は国民の生活の安定、自立支援、家庭機能の支援である。始めにこれらを国家として取り組む必要性について理解をする。次にこの制度を維持するための、社会的安全装置（社会的セーフティネット）相互扶助、所得再分配とは何か、最後に社会保障制度を運用するための具体的な法整備について知る。

〈到達目標〉

社会保障制度の中で柔道整復師はどう貢献すべきなのかを理解することが当講義の根源的な目標である。

2. 授業内容

第1回　オリエンテーション

第2回　社会保障、社会保険制度

第3回　医療保険制度①

第4回　医療保険制度②

第5回　療養費制度①

第6回　療養費制度②

第7回　療養費請求のケーススタディ

第8回　最終評価

3. 履修上の注意

遅刻および欠席は認めない。

4. 準備学習（予習・復習）の内容

講義で実施した内容は必ず復習をしておくこと。

5. 教科書

社会保障制度と柔道整復師の職業倫理（医歯薬出版株式会社）

6. 参考書

7. 成績評価の方法

定期試験の成績で評価をする。（平常点を加味する。）

8. その他

専門分野	基礎柔道整復学	柔道整復理論（総論）1	
佐藤洋平	接骨院勤務後、スポーツジムのメディカルトレーナーとして勤務。その後、専門学校にて６年間従事する。		
必修	4単位（80時間）	講義	1年次

1. 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

骨の性状、骨折が発生する機序、因子、骨折の分類、骨の治癒過程等を理解させ総論の基礎を履修させる。

〈到達目標〉

柔道整復学の用語に慣れ、語彙から視覚イメージをもち、各論へのスムーズな導入を目指す。

2. 授業内容

第1回	身体の基礎的状態、損傷時に加わる力	第21回	骨折の合併の症状と病態生理①
第2回	骨折の定義・分類、骨損傷の分類	第22回	骨折の合併の症状と病態生理②
第3回	損傷の程度による分類（完全骨折・不全骨折）	第23回	骨折の合併の症状と病態生理③
第4回	骨折線の方向による分類	第24回	骨の細胞と機能①
第5回	骨折数による分類、外力の働き方による分類	第25回	骨の細胞と機能②
第6回	骨折の症状（一般外傷症状、固有症状）①	第26回	リモデリングとモデリング
第7回	骨折の症状（一般外傷症状、固有症状）②	第27回	ウォルフの法則
第8回	骨折の全身症状	第28回	骨折の予後
第9回	前期中間試験	第29回	後期中間試験
第10回	フィードバック	第30回	フィードバック
第11回	骨折の合併症①（併発症、続発症）	第31回	骨折による痛みの基礎①
第12回	骨折の合併症②（続発症、後遺症）	第32回	骨折による痛みの基礎②
第13回	小児の骨折①	第33回	急性痛と慢性痛
第14回	小児の骨折②、高齢者の骨折①	第34回	痛みの評価
第15回	高齢者の骨折②、骨折の癒合日数	第35回	痛みへのアプローチ
第16回	骨折の治癒経過	第36回	筋、腱の損傷①
第17回	骨折の予後、骨折の治癒に影響を与える因子①	第37回	筋、腱の損傷②
第18回	骨折の予後、骨折の治癒に影響を与える因子②	第38回	神経損傷
第19回	前期末試験	第39回	後期定期試験
第20回	フィードバック	第40回	フィードバック

3. 履修上の注意

授業中にノートはまとめなくてよい。ひたすら教員の説明に耳を傾け、教科書に書いていない内容をメモすること。

4. 準備学習（予習・復習）の内容

予習の必要性はないので、講義のノート、小テストで覚えるまで反復する。

5. 教科書

柔道整復学(理論編第7版)

6. 参考書

なし

7. 成績評価の方法

出席状況、授業態度、定期試験により総合評価。

8. その他

専門分野	基礎柔道整復学	柔道整復理論（総論）2	
源田 周人	接骨院に3年勤務		
丹尾美絵	柔道整復師として接骨院の実務経験		
必修	2単位（60時間）	講義	1年次

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

本講義の目的は全身を巡る循環器（心臓・血管）を解剖学的と生理学的に学ぶ。今後学んでいく柔道整復各論の際に合併症で起こりうる血管損傷の部位や拍動の確認ができるように血管の走行を学習する。

〈到達目標〉

各疾患（骨折・脱臼）の損傷の際に起こりうる血管損傷を解剖学的視点から考察することができるための力を身につけていくことが目標である。

2 授業内容

1回	循環器系復習①	16回	下肢の血管と走行①
2回	循環器系復習②	17回	下肢の血管と走行②
3回	血管損傷総論①	18回	下肢の血管と走行③
4回	血管損傷総論②	19回	下肢の骨折と血管損傷①
5回	上肢の血管と走行①	20回	下肢の骨折と血管損傷②
6回	上肢の血管と走行②	第21回	下肢の脱臼と血管損傷③
7回	上肢の血管と走行③	第22回	下肢の脱臼と血管損傷④
8回	上肢の骨折と血管損傷①	第23回	下肢の軟部組織損傷と血管損傷①
9回	上肢の骨折と血管損傷②	第24回	下肢の軟部組織損傷と血管損傷②
10回	上肢の脱臼と血管損傷③	第25回	下肢の血管損傷と判断
11回	上肢の脱臼と血管損傷④	第26回	上肢の脈拍触知部位と脈の取り方
12回	上肢の軟部組織損傷と血管損傷①	第27回	下肢の脈拍触知部位と脈の取り方
13回	上肢の軟部組織損傷と血管損傷②	第28回	その他の脈拍触知部位と脈の取り方
14回	上肢の血管損傷と判断	第29回	総復習
15回	確認試験	第30回	最終評価

3 履修上の注意

・毎授業開始時に先週の範囲から小テストを実施する。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

・先週の授業範囲の内容を復習し小テストに臨むこと。

5 教科書

解剖学、柔道整復理論

6 参考書

7 成績評価の方法

定期試験全2回の平均点を評価とし、授業内の小テストを加点材料とする。

ただし、40点未満は平均点に関わらず必ず再試験を受験する。

8 その他

専門分野	基礎柔道整復学	柔道整復理論（総論）4	
榎戸亜希子	接骨院経営、自然医学		
必修	4単位（80時間）	講義	1年次

1. 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

本講義では関節の構造と形態を解剖学や運動学の知識をもとに学んでいき、関節部の損傷として脱臼が発生するメカニ

〈到達目標〉

各部位における関節損傷および軟部組織損傷を学んでいくための基礎的な知識の獲得を到達目標とする。

2. 授業内容

第1回	関節の構造	第21回	筋損傷
第2回	関節の構成組織	第22回	筋の構造
第3回	関節の構成組織	第23回	筋損傷
第4回	関節損傷	第24回	筋損傷の分類
第5回	関節損傷	第25回	筋損傷の分類
第6回	関節軟骨損傷	第26回	筋損傷の治癒機序
第7回	関節軟骨損傷	第27回	筋損傷総論
第8回	その他関節構成組織損傷	第28回	筋損傷総論
第9回	前期中間試験	第29回	後期中間試験
第10回	試験解説	第30回	試験解説
第11回	脱臼の定義	第31回	腱の構造
第12回	脱臼の分類	第32回	腱の損傷
第13回	脱臼の分類	第33回	腱損傷の分類
第14回	脱臼の症状	第34回	腱損傷の症状
第15回	脱臼の合併症	第35回	末梢神経の構造
第16回	脱臼の予後	第36回	神経損傷の分類
第17回	脱臼総論	第37回	神経損傷の分類
第18回	脱臼総論	第38回	神経損傷の種類
第19回	前期末試験	第39回	後期定期試験
第20回	試験解説	第40回	試験解説

3. 履修上の注意

授業中にノートはまとめなくてよい。ひたすら教員の説明に耳を傾け、教科書に書いていない内容をメモすること。

4. 準備学習（予習・復習）の内容

予習の必要性はないので、講義のノート、小テストで覚えるまで反復する。

5. 教科書

柔道整復学(理論編第7版)

6. 参考書

なし

7. 成績評価の方法

出席状況、授業態度、定期試験により総合評価。

8. その他

専門分野	臨床柔道整復学	柔道整復理論(各論)2	
佐藤　洋平	専門学校勤務歴6年		
必修	2単位（40時間）	講義	1年次

1. 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

肩関節周囲の骨折や脱臼を学んでいく。鎖骨骨折や肩関節脱臼は比較的遭遇することの多い外傷であるため本講義で分類や転位などをしっかりと学び身につけること。

〈到達目標〉

各外傷の発生機序を理解した上で運動器の機能解剖をもとに転位や好発理由などを説明できる。

2. 授業内容

第1回	授業ガイダンス	第16回	上腕骨外科頚骨折②
第2回	上肢帯の機能解剖	第17回	肩関節脱臼①
第3回	鎖骨骨折①	第18回	肩関節脱臼②
第4回	鎖骨骨折②	第19回	後期確認試験②
第5回	肩鎖関節脱臼①	第20回	解説とフィードバック
第6回	肩鎖関節脱臼②		
第7回	胸鎖関節脱臼①		
第8回	肩甲骨骨折		
第9回	後期確認試験①		
第10回	解説とフィードバック		
第11回	肩関節と上腕骨の機能解剖		
第12回	上腕骨近位端部骨折：概略、分類		
第13回	上腕骨近位端部骨折：骨頭骨折、解剖頚骨折		
第14回	上腕骨近位端部骨折：大、小結節単独骨折、近位骨端線離開		
第15回	上腕骨外科頚骨折①		

3. 履修上の注意

骨折総論で学習した専門用語が頻出するためしっかりと復習を済ませておくこと。

4. 準備学習（予習・復習）の内容

予習も重要だが前回やった講義内容の復習をしっかりと行うこと。

5. 教科書

柔道整復学・理論編(南江堂)

6. 参考書

無し

7. 成績評価の方法

基本的には定期試験の成績により評価する。ただし、担当教員により出席、小テスト、聴講態度なども評価対象として加味される。

8. その他

講義の際に配布資料があるため自己での管理をしっかりと行うこと。

基礎分野	臨床柔道整復学	柔道整復理論（各論）6	
永井 孝英	柔道整復師として25年。接骨院院長として20年		
沼尻 昭	整形外科で8年間勤務し外傷の処置、整形外科的疾患のリハビリを担当する。		
必修	4単位(120時間)	講義	1年次

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

柔道整復師として施術を行うためには部位別の運動器についての知識を身につけ、全身の骨や関節、靭帯の構造や、筋腱の走行を理解することが必須である。そのため、関節の解剖学的構造と関節の運動メカニズムも併用し学習していくことが必要となる。各疾患部に関わる解剖学および運動生理学（運動メカニズム）、さらには柔道整復理論を理解したうえで、各疾患（骨折・脱臼）を想定し整復動作と固定法を学び、それを行えるようにする。

〈到達目標〉

各疾患（骨折・脱臼）の損傷のメカニズムや症状および合併症を解剖学的視点から考察することが出来るための力を身につけていくことが目標である。

2 授業内容

1回	解剖学用語①	31回	股関節
2回	解剖学用語②	32回	膝関節①
3回	骨格系総論(骨)①	33回	膝関節②
4回	骨格系総論(骨)②	34回	下腿の連結
5回	骨格系総論(骨)③	35回	足関節①
6回	鎖骨　肩甲骨	36回	足関節②
7回	上腕骨	37回	足指の連結
8回	橈骨	38回	筋系総論①
9回	尺骨	39回	筋系総論②
10回	確認試験	40回	筋系総論③
11回	手根骨	41回	筋系総論④
12回	指骨	42回	上肢帯筋①
13回	骨格系総論(関節)①	43回	上肢帯筋②
14回	骨格系総論(関節)②	44回	上肢帯筋③
15回	確認試験	45回	確認試験
16回	胸鎖関節　肩鎖関節	46回	上腕の筋①
17回	肩関節	47回	上腕の筋②
18回	肘関節　前腕の連結	48回	上腕の筋③
19回	手の連結	49回	上腕の筋④
20回	指の連結	50回	上腕の筋⑤
21回	骨盤①	51回	前腕の筋①
22回	骨盤②	52回	前腕の筋②
23回	骨盤③	53回	前腕の筋③
24回	大腿骨　膝蓋骨	54回	前腕の筋④
25回	脛骨	55回	前腕の筋⑤
26回	腓骨	56回	前腕の筋⑥
27回	足根骨	57回	手の筋①
28回	足指骨	58回	手の筋②
29回	骨盤～下肢骨まとめ	59回	手の筋③
30回	定期試験	60回	最終評価

3 履修上の注意

人体の構造を理解するための基礎となることから講義には毎回必ず出席をすること。
講義中も受身ではなく自分自身でも考えながら聴講するように努めてもらいたい。
万が一、学習に遅れが生じるようであれば担当教員などに確認するなどの行動を取り遅れを取り戻すよう心がけてほしい。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

前週の授業範囲の内容を復習し授業にのぞむこと。

5 教科書

解剖学・柔道整復理論

6 参考書

サブテキスト（柔整解剖運動器系・骨、柔整解剖運動器系・筋）

7 成績評価の方法

定期試験全4回の平均点を評価とし、授業内の小テストを加点材料とする。

8 その他

分野	柔道整復実技1	柔道整復実技1	
鈴木青也	接骨院にて3年間臨床を経験		
必修	2単位（80時間）	実技	1年次

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

柔道整復師として重要な固定の目的や理論を講義し、実技では基本包帯法や各疾患に対する応用した包帯法などを身に付けることを目的とする。

具体的には、まず固定の目的・範囲・肢位などを明確化し、理論に基づいた固定ができる技術を身に付ける。そのために以下の目的を示す。①基本包帯法「環行帯・螺旋帯・蛇行帯・折転帯・亀甲帯・麦穂帯」を身に付けることで包帯に触れ、扱い方も含めての基本を学ぶことを目的とする。②肩関節・肘関節・足関節など各関節部に対する部位別の包帯法を身に付け次の応用に向けての準備を目的とする。③各疾患別の包帯法を身に付け、具体的に疾患を想定してしっかりと目的に沿った固定をすることを目的とする。

〈到達目標〉

・柔道整復師としての心構えを育てる。
・基本包帯法(環行帯･螺旋帯･蛇行帯･折転帯･亀甲帯･麦穂帯)の走行と巻き方を身に付ける。
・各疾患別に対する固定法を身に付ける。

2 授業内容

1回	ガイダンス　実技の取り組み方について	21回	鎖骨骨折　診察整復③
2回	包帯の扱い方、巻軸包帯について	22回	鎖骨骨折　診察整復④
3回	固定について(講義・座学試験)	23回	鎖骨骨折　固定①(固定用具作成含む)
4回	基本包帯法①	24回	鎖骨骨折　固定②
5回	基本包帯法②	25回	鎖骨骨折　固定③
6回	基本包帯法③	26回	鎖骨骨折　固定④
7回	基本包帯法④	27回	肩鎖関節脱臼理論
8回	肋骨の構造と肋骨骨折理論	28回	肩鎖関節脱臼　診察整復①
9回	肋骨骨折①	29回	肩鎖関節脱臼　診察整復②
10回	肋骨骨折②	30回	肩鎖関節脱臼　診察整復③
11回	肋骨骨折③	31回	肩鎖関節脱臼　診察整復④
12回	肋骨骨折④	32回	肩鎖関節脱臼　固定①
13回	足関節の構造と足関節捻挫理論	33回	肩鎖関節脱臼　固定②
14回	足関節厚紙固定①	34回	肩鎖関節脱臼　固定③
15回	足関節厚紙固定②	35回	肩鎖関節脱臼　固定④
16回	足関節厚紙固定③	36回	上腕骨外科頚骨折理論
17回	足関節厚紙固定④	37回	上腕骨外科頚骨折　診察整復①
18回	鎖骨の構造と鎖骨骨折理論	38回	上腕骨外科頚骨折　診察整復②
19回	鎖骨骨折　診察整復①	39回	上腕骨外科頚骨折　診察整復③
20回	鎖骨骨折　診察整復②	40回	上腕骨外科頚骨折　診察整復④

3 履修上の注意

出席と試験結果を成績評価の中心とする。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

授業内容、講義での理論の内容を予習復習しておく。

5 教科書

標準整形外科学

6 参考書

柔道整復学・理論編(改定第7版)、柔道整復学・実技編(改定第2版)、包帯固定学(改定第2版)

7 成績評価の方法

基本的には定期試験の成績により評価する。ただし、担当教員により出席、授業態度なども評価対象として加味される。

8 その他

授業を進める上で配布する資料を必ず使用するので持参すること。

分野	柔道整復実技3		**柔道整復実技3**
大城啓子	接骨院勤務5年、ハローワーク職業訓練学校講師3年		
新才博紀	柔道整復師として臨床経験10年以上		
鈴木青也	接骨院にて3年間臨床を経験		
必修	3単位（120時間）	講義	1年次

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

柔道整復師の業務内容である、診察・整復・固定・後療法の理論について理解し、実技につなげることを目的とする。また後療法は手技療法、運動療法、物理療法についての理論を学び患者一人一人に合った治療法を選択し実施できるようにする。そして、柔道整復師として備えるべくテーピング固定、下肢軟部組織損傷に対するの知識・技術・応用力を身につける。治療に必要な評価法、治療法、テーピング固定法などを詳しく学び、卒業後に現場で即戦力となる人材を育てる。また、臨床実習に向けて現場で必要な知識と技能、態度を学び臨床実習前試験を行い実習に滞りなく参加できるような学生を育てる。

〈到達目標〉

・診察・整復・固定・後療法の各項目について理解できるようにし、各論を学ぶ際に治療法を結び付けられるようにする。
・テーピング固定の知識と技能を習得する。
・臨床実習に参加するための知識、技能、態度を身に着ける。
・下肢の軟部組織損傷のHOPSを行えるようにする。

2 授業内容

1回	診察①	31回	テーピングの種類と機能
2回	診察②	32回	足関節のアンダーラップとアンカーテープ
3回	治療法（骨折の整復①）	33回	バスケットウィーブ
4回	治療法（骨折の整復②）	34回	フィギュアエイト
5回	治療法（脱臼の整復①）	35回	ヒールロック
6回	治療法（脱臼の整復②）	36回	足関節のテーピングまとめ
7回	治療法（軟部組織損傷の初期処置）	37回	膝関節のアンダーラップとアンカーテープ
8回	治療法（固定①）	38回	膝関節のサポートテープ
9回	治療法（固定②）	39回	膝関節のサポートテープ
10回	治療法（固定③）	40回	キネシオテーピング
11回	治療法（手技療法）	41回	膝関節の構造
12回	治療法（運動療法）	42回	膝関節側副靭帯損傷に対するテスト法
13回	治療法（物理療法①）	43回	膝関節側副靭帯損傷　診察・検査①
14回	治療法（物理療法②）	44回	膝関節側副靭帯損傷　診察・検査②
15回	治療法（物理療法③）	45回	膝関節半月板損傷に対するテスト法
16回	治療法（指導管理）	46回	膝関節半月板損傷　診察・検査①
17回	外傷予防（第１段階）	47回	膝関節半月板損傷　診察・検査②
18回	外傷予防（第２段階）	48回	膝関節十字靭帯損傷に対するテスト法
19回	外傷予防（第３段階）	49回	膝関節十字靭帯損傷　診察・検査①
20回	定期試験	50回	膝関節十字靭帯損傷　診察・検査②
21回	神経の皮膚知覚領域の触診　①	51回	下肢の疾患に対するテスト法　①
22回	神経の皮膚知覚領域の触診　②	52回	下肢の疾患に対するテスト法　②
23回	動脈拍動部の触診　①	53回	脊柱部と胸郭・上肢部に対するテスト法①
24回	動脈拍動部の触診　②	54回	脊柱部と胸郭・上肢部に対するテスト法②
25回	圧痛確認時の術者の手指の操作　①	55回	打腱器を用いた伸張反射の検査①
26回	圧痛確認時の術者の手指の操作　②	56回	打腱器を用いた伸張反射の検査②
27回	足関節に対するテスト法	57回	臨床実習で求められる学生像について
28回	足関節外側側副靭帯損傷　診察・検査①	58回	臨床での患者の接し方について
29回	足関節外側側副靭帯損傷　診察・検査②	59回	臨床実習前試試験について
30回	足関節外側側副靭帯損傷　診察・検査③	60回	臨床実習前試験

3 履修上の注意

出席と試験結果を成績評価の中心とする。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

授業内容、講義での理論の内容を予習復習しておく。

5 教科書

標準整形外科学

6 参考書

柔道整復学・理論編(改定第7版)、柔道整復学・実技編(改定第2版)、包帯固定学(改定第2版)

7 成績評価の方法

基本的には定期試験の成績により評価する。ただし、担当教員により出席、授業態度なども評価対象として加味される。

8 その他

授業を進める上で配布する資料を必ず使用するので持参すること。